

## 日米貿易協定交渉から日本の農業・農村を守る要望意見書

日米貿易協定交渉が4月より開始され、日本政府は過去の経済連携協定の内容が最大限とする日米共同声明に沿って交渉するとしています。

しかしながら、来日したトランプ大統領からは、TPPに縛られないなどとTPP以上を求める姿勢を示すとともに、8月に良い内容が発表できると表明するなど、早期妥結に向け米国からの要求が強まるのが危惧されています。すでに、米国の高官からは農業分野での先行妥結やTPPを上回る関税撤廃・削減や輸入枠拡大を求める業界団体からの圧力が高まっており、生産現場では不安を募らせています。

現在、TPP11及び日EU・EPA協定発効によって牛肉やチーズなど農産品が前年より輸入増加する状況下、このまま米国の強硬な要求に屈すれば、日本の農業及び関連産業や地域経済・社会が甚大な影響を被ることになり、わが国の食糧主権を形骸化し、国内農業・農村の崩壊につながる危険性があります。交渉の焦点とされる自動車などの対米輸出のために、国民の命の源である自国の農産物を代償として差し出すことは断じて許されません。

世界的には、人口増加による食料不足や頻発する自然災害で食料供給が不安定になる可能性が高いとされるなか、安全・安心な食料を安定的に国民に供給することが重要となっています。

ついては、関係機関と連携をして、日米貿易協定交渉にあたり、わが国の食糧主権及び食料安全保障が守られますよう、下記のとおり要望いたします。

### 記

1. 国民への安全で安心な食料を安定的に供給する観点から、わが国の食糧主権と食料安全保障を守ることを基本に、交渉内容の丁寧な情報提供を行い、国民合意がないまま交渉を拙速に妥結しないこと。
2. 農業者の不安を払しょくするため、国内の農業・農村をつぶしかねない米国の強硬な要求に屈することなく、重要農畜産物の関税削減・撤廃及び輸入枠拡大などは断じて受け入れないこと。

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

《提出先》

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、経済再生担当大臣、農林水産大臣